

無原罪の聖母は、なぜ幸せなのか？

当時のイスラエル女性は、聖母を羨ましく思い「幸せな方、救い主の母になったマリア」と賛美しています。ところが、イエスは「聖母が幸せなのは、救い主を産んだからではなく、神のみ旨を果たしたからだ」と訂正しています。幸せは行いそのものではなく「神に従う」実りだからです。幸せは、自分で作るものではなく、神から頂くものです。聖母は「お告げ」の時に、「神のみ旨が私において実現しますように」と覚悟を決めました。そして、死ぬまで決心を貫き通したのです。だから、誰よりも幸せな方になりました。

家畜小屋で救い主を生みましたが、それでも幸せでした。もし、あなたが同じ状況になったら、幸せに過ごせますか？多くの人にとって、それは屈辱的で、最低の不幸になるでしょう。幼子を連れてエジプトに逃げた時も、文句ひとつ言いません。息子イエスの死に際しても、気丈に十字架の側に立って苦しみを分かち合いました。苦しみながらも、泣きながらも、同時に落ち着いて平和な心を保っていました。これが幸せな魂の特徴です。あなたは、こんな状況に耐えられますか？その違いは、何処にあるのでしょうか？マリア様は恵まれた方だからできて、私たち凡人には出来ないのでしょうか？

現代人は、幸せを自分の手で掴もうと必死になって努力しているように見えます。ある人は、高学歴、高収入、美しい容姿、健康などに。また、ある人は夢を叶える自己実現によって、幸せを目指しています。一見、良い事に思えますが、人間は人を計る物差しで、自分も計ります。また、神様も同じ基準で裁きます。つまり、こうです。学歴が低いと不幸、貧乏は不幸、病気は不幸、夢を叶えない人は不幸になるのです。これでは、ほとんどの人が幸せになれません。そして、人生の最後には、すべてを失いますから、すべての人は不幸な人生で終りになります。これは、考え方が間違っているからでしょう。

聖書に登場する「金持ちの青年」が、このタイプでした。自分の手で幸せを掴もうと必死に努力する、いい人でした。でも、「まだ何か足りない」と感じていました。現代人も同じ。幸せになるために何か足りないと感じて、不安になっています。イエスは青年に勧めます。考え方、生き方自体を変える必要があると。することを増やすのではなく、価値観を土台から変えることです。「私に従いなさい」これです。これが人生で幸せになる秘訣です。人生には喜びと悲しみ、失敗と成功、光と影、出会いと別れ、すべてがあります。これら全てが必要不可欠な人生のピースなのです。一つでも欠けたら、あなたの人生が完成しません。神があなたを導いている事を信じましょう。■*2024/12/04 グレースにて「キリスト教入門講座」(文責：小寺神父)